



たより



<第11号>

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo>
E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

令和3年2月24日
伊勢市教育研究所
伊勢市小俣町元町540番地

「社会科副読本の意義と今後の活用について」

元御園小学校長 西 良孝

社会科の教科書は指導要領を踏まえて学び方や資料の掲載の仕方等で多くの学ぶべき点があります。しかしそれは全国的な観点で作られているため掲載された地域は児童にとって遠いところのものと受け止められ、学習の動機付けや展開に難を伴うこととなります。それを補うものとして副読本が求められ、県内では全市町で作られています。本市の副読本では、児童の発達段階に鑑み、地域の取り上げ方に配慮しながら、身近な事象を取り上げ、学習方法のイメージや具体的思考が出来るよう常に最新の資料の掲載に努めています。また市の方々の話も方言(国語でも学習)を交えて親しみやすいものになってきます。

しかしページ数に制約もあり、どの学校の児童にも市内で身近でない所はあり、その点は先生の教材研究に委ねざるを得ないところも否定出来ません。

ところで今回指導要領が新しくなり、今までは3・4年生は一つのみとまりとして学習をしていたのが、3年で市、4年で県を中心とする学習となり、教科書も別々に配付されました。副読本もそれに合わせて学年別に組み替え、目次も別々に作りました。学年の目標・内容共今までに比べて高度になったようです。例えば今までは「古くから残る暮らしに関わる道具」から始まる学習が「市の様子の変り変わり」となりました。これは空間意識に比べて時間意識の発達が遅い3年生にとって、やや難しく今後これを助ける補助的な資料のあり方を考えていく必要があります。

いっぽう今の時代は「電話→携帯」「コロナ対応」等技術にしろ社会にしろ非常に激しく変化しています。また「日本人は国際会議等に出た時、話し合いが下手である。」等の記事も目にしました。その一要因として「小学校から高等教育までの学習には答えがあり、それを求める形が主であった。」とも書かれていました。

今回の改訂では「教師による一方的な教育とは異なり、学習者の能動的な参加を取り入れた学習方法」を全教科に求めており(アクティブ・ラーニング)社会科も例外ではありません。教科書展示センターにある3社の教科書にも揃って最初に勉強の仕方が書かれており、「学習問題」という言葉も共通して使われています。そして話し合いながら問題解決学習をしていく道筋も書かれています。副読本では学習の仕方については教科書で学んで頂くようにしていますが、各単元では児童が主体的・能動的・協動的に学習していけるような工夫はさらに考える余地があると思います。先生方は昔と比べて極めて多忙なことは私も経験上十分承知していますが、授業はやはり教師の仕事の中核です。色々な工夫をしていただき、新しい形の授業を一度試みて頂きたいと思います。一度やれば授業への見方や考え方が変わります。ポイントは「何を教えたのか」ということから始めるのではなく、その事も踏まえて「どの様な子どもを育てたいのか」と考えて授業に臨むことです。

子どもは大人とは違った目をもっています。例えば店の学習の後「道端の自販機は店ですか?」とか、工場の学習の後「給食調理室は工場ですか?」等です。ここで直ぐ教えようとはせず、各自の考えを出し合い話し合えば良いのです。「分かれば分かるほど新たな疑問が出てくる」これが科学者の思っている事であり、主体的・能動的な学習の道筋だと思います。これからの副読本も伊勢市の最新の様子を示す事に加えて、様々な人と触れ合いながら進められる学習問題を追究出来るよう工夫していくことが必要だと思っています。

今年度の社会科副読本資料作成研究会は無事に終了し、ご助言いただいた西 良孝先生、中心となってご参加いただいたブロック代表の先生方のおかげで、「令和3年度版社会科副読本『わたしたちの伊勢市』」の校了を迎えることができました。1年間、本当にありがとうございました。



【第2回 若手教職員の学びを支える研修】

「ICT 機器を活用した授業づくり」を実施！！



1月26日（火）、第2回若手教職員の学びを支える研修「ICT 機器を活用した授業づくり」を実施しました。第2回は、伊勢市教育研究所情報教育係 強力 大和による、これからのGIGAスクール構想の実現にむけての研修が行われました。対象は採用5年目までの教職員とされ、市内40名もの若手教職員が参加し、オンライン形式で開催されました。

今回の研修会の内容は、「校内のICT環境を知る」ところから始まり、「1人1台端末時代に何から始めるか」、「その次のステップとは何か」、最後は「GIGAスクール構想を進めるにあたって1番大切なことは何か」ということについて、時に参加者の意見も聞きながら、具体的な手立てについて紹介する形で進められました。

[2. 1人1台環境、まず何から始める?]
まずは「とる・みる・きく」から始める!

- 写真を撮る・動画を撮る
- 録音する

過去の授業の様子を見返ることができる画像を見て、気付いたことを交流できる録音データをもとに、評価ができるお互いの様子を見合ったり、聞き直したりできるお手本として、再生することができる子どもたちのノートを、手元に残すことができる

「こんなこといいな」「できたらいいな」で考える。
※自分の仕事の負担を減らせるように。

[4. GIGAスクール構想において一番大切なこと]
①未来の社会を切り拓く力をつける

「Society5.0の時代を生き抜く」ということ
⇒ICTの中で、生活する(できる)力が必要
⇒単純作業を繰り返す仕事は、将来なくなる可能性が高い。
⇒「創り出す」職業が、残っていく。

学んだ知識を活用できることが大切。
1つの単元、教科で身につく知識ではなく、さまざまな知識をリンクさせることができる力を育てていきたい

[4. GIGAスクール構想において一番大切なこと]
③学びを止めないために備える

GIGAスクール構想が急がれた一番の理由

新型コロナウイルス感染症対策

何かあったときに、すぐにオンライン授業に切り替えられるように。
Zoomの使い方(開催側)だけは、必ず把握しておく。

「何か起きたときに使い方を覚える」は大間違い。

(研修資料より一部抜粋)

満足度100%

【みなさんの声より】

- ・とにかく使ってみることが大切だと思った。子どもたちにわかりやすく、自分たちの仕事も楽になるので最初は失敗するかもしれないし、子どもたちにとっても良いかわからないが、わからないことは聞いて、積極的に活用したいと思いました。
- ・情報リテラシーを子どもたちに伝えていくことも大切であると感じました。ただ、業務の効率化により、子どもたちのためになる教育につながると思いました。教材等も教育委員会単位で共有できるようになるといいなと思いました。またいろいろな研修に参加し、自己研鑽に努めていきたいです。
- ・密集を避けるために非常に有効であることや、臨時休業となった場合にも、一人一台端末の授業形態を進めることで、自宅からのオンライン授業が可能となり学習の遅れを避けることができるということ学びました。若手として積極的にICTを活用していくことが大事であると感じました。
- ・最後の言葉にあった、起きてからやり方を学ぶのではなく、起きる前に知っておくことの言葉の重みを感じました。職員間で交流しながら、学ぶ機会を持っていきたいと思えます。



絶賛公開中★



<http://www.ise-mie.ed.jp/~igs/index.html>

ただ今、伊勢市教育研究所では、今後の伊勢市ICT教育に関するガイドブックとなるべくホームページ、GIGAスクール応援サイト『ISE-GIGA-SUPPORT』を立ち上げ、ご活用いただけるよう随時更新中です。お役に立つ説明動画も満載。ぜひ、ご活用ください。

加工など二次使用をご希望の方は伊勢市教育研究所(0596-22-7900)までご連絡ください。